

叢書インテグラレ創刊の辞

科学は専門分野をもち、それを細分化し、細分化したものをさらに細分化させてきた。その傾向は今やますます顕著になっている。

他方、そうした細分化された研究を、あるいは融合させあるいは協同させる試みや、細分化された個々の研究分野のあいだに新しい研究分野を発見する「学際」研究への努力も続けられてきた。従来の研究手法では太刀打ちのできない現代の難問は、これらの真剣な努力がなければ、われわれの手をすり抜け生きのびてしまうであろう。

「総合科学」は狭義の専門研究体制にたいするアンチテーゼとして提案され、学部の呼称として選ばれてより三十年を閲した。これを契機として、個々の研究者の「総合」への努力と、異なる研究分野の協同の試みとを、できるだけ平易にご紹介するために「叢書インテグラレ」を創刊する。ラテン語の「インテグラレ integrare」は「修復する」「完全なものにする」「より大きな全体のなかに組みこむ」の意であり、学部の欧文名称にも用いられてきた。

ところで、異分野間の協同と研究分野の枠組の突破は、「教養」というエネルギーがなければ実現しないことである。教養の支えなくしては協同も突破もありえない。異分野への強い思いは想像力によって運ばれるが、想像力をたんなる無秩序なエネルギーとしないためには、これを秩序づける「教養」の力がなくてはならない。教養は想像を秩序づけ、異分野を結び、「総合科学」を創造的なものに変えていく。

この意味において、本叢書は大学の教養教育などの場でもテキストとして使用できるよう工夫しているが、むしろそれ以上に、現代において「教養とは何か」「教養の意味とは何か」という切実な問いにたいする解答の試みであり、教養復権の書でもあると自負している。多くの読者にご覧いただき、ご批判をたまわれれば幸いである。

本叢書は、広島大学総合科学部創立三十周年を契機として創刊されるが、この学部はいわゆる専門教育だけでなく、広島大学における教養教育のほとんどを担ってきた。それゆえ、狭い研究分野の突破、異分野の協同という横軸はいうに及ばず、教養教育と専門教育と、さらには大学院教育とを連結、融合させるといった縦軸においても、「総合科学」を実践してきた。その実践記録がこの叢書のもう一つのメッセージである。

われわれの提案が幸運にも広く迎えられ、「総合科学」への理解が深まり、これをあいことばとして多くの人が結ばれるのにこの叢書が役立つならば、叢書の目的は達成されたのである。